# 鳩巣書翰

十三

和書門 類
二七二一七 號
九一 函
九 架
一五 冊

内閣文庫
和書 類
二七二一七 號
一五 冊
二〇四 函
一三 架

内閣文庫
番號 和27217
冊數 15（13）
函號 204 252

国立公文書館
National Archives of Japan

明治十二年購求

# 鳩巣書簡巻之十三

享保七年

一 十五日於御老中御役人衆へ被仰出候ハ以来御用之外登城不仕

御講釈ニ付上様御聴聞之事ニ候所定而御講釈ニ付御目見へ

有之候ニ付ても一切之御用向今日之由大方の覚

被成候由御尊ニ而御座候ハ中ニ候共少々為取候へとも馬上ニ而度

下筆ニ而学問御座候ハ其元ニ而学問ハ之仕候而ハ相(ホト)難く

人ニ候ハ行候ニ馬ニ様御座候而御目ニ掛候はゞ能出来候へ

之上候ニ而も其心得之為ニ付て士之行候様仕候御座候

様子被申候ハ上之御事無之今程ニ被仰候ハ

学問ニ候ハゞ年来上下之御為ニ候ハゞ上へ被仰付候学問

[illegible]ニ被仰付候ハ、其上ニも御勤ニ候て[illegible]ハ相成[illegible]
上候ハ御勤ニ而[illegible]仕候ものハ其のまゝ掛り老中より
并[illegible]御同様ニ而[illegible]御用[illegible]申上候
[illegible]御人数[illegible]方[illegible]幼少ニ成ハ[illegible]只今迄
[illegible]被為[illegible]安永[illegible]御年寄老中
被仰付候ニ付対州[illegible]同所内酒井[illegible]
今[illegible]此人[illegible]対馬守[illegible]
手紙差上候ハ[illegible]大老[illegible]陸奥守[illegible]
相成候[illegible]武田[illegible]上候ハ一段宜
[illegible]此一件ハ[illegible]

①

④

[illegible]御座候御門[illegible]被仰付先例之容子相
[illegible]此一件[illegible]寡君同様[illegible]申達
一統ニ思召[illegible]若[illegible]
御家[illegible]住中御同[illegible]
[illegible]首尾[illegible]大和[illegible]雅楽頭[illegible]
[illegible]
[illegible]大事[illegible]
一[illegible]変代[illegible]忠[illegible]
[illegible]保[illegible]
[illegible]御門[illegible]顧[illegible]

給ふに近頃迄文之道後世に伝ふる事古き例に御名目
を称し乱世に御座候得ハ思ふまゝに文武両道を相兼其器を申
者ハ凡臣以無之御座候得共天下を治め文武両道を兼備ふ者も
有之といへとも御取立無之其器を以て天下の政道を司ると
役人の中に撰ひ出して是を天下を任し以て役人を立へし
然る上は其元ニ申上候処ハ天下ハ御目前の御威光に候得ハ
得と御分別にて役人に相成候て御選立の故
役人の勢を伝へしむる事ニ御座候天下泰平のもと
御出生の御名目を御立させ天下一同に感動仕候御文武之
事にてハ御座候諸侯方に今も申上候山名殿御請申上

㊄

㊁

然る所何事も御沙汰なくして猶以来朝し給ひ官位を望み子
孫に至る迄御恩を蒙る事なく官位を授給はす年々賞罰
同事に至るまで無沙汰なる事にて天下の乱と成候
ことに拝受して在京の上役人の中にも一二を以て何事も
万事御沙汰なく在位の時も其沙汰に及ばす宮を御所
に移し然ル処也一己を以て兄弟の儀なくしては事行ふ本朝に於て是を
実は後漢光武帝中興の時二十八将を以て武功ある将軍
同様に候得共封ずるに爵を以てす内都護を任じ大臣の職を
請れ候人を撰して三公に任ず是に依て何れも世に
一人もなし宋の太祖の時趙普王韓某杯三人同様に

右法印法躰親王一人猶子孫とも官家の九年以上なかりし
子孫に何の由申しも際も無之様に道中よりは道にて申し何角私
中若年寄もこれは道中にて身分相定候にて候　右の通り御達有之
上より御法法印法躰に候得共子孫の四民の者に候事も尚も只今
名を書載之外上様共相尊候て御当家の名籍親代官御地之事も
庸之事にて今日其人の風に任候由も諸家通千石以上の子孫大名共も
右之様子に会も達し其外御親類を差出し其外右に様御附申し　千石以上見之千石以上の稀孝　文帝大和八年通経
門地之事八方旗之様子を其相尽し候は重御中の倫理を得て　二季沖倫見因　二千余
此外之出張御中の事に候て和解申之上より何とか之相済
中間之様とも其上者以上系譜大猷院様御外孫之内

三

六

此方御懸候上其上深き御申し子細に申候ては何とも　上様ハ
諸大名中分十万一上御用申てに候もの御分水戸殿之事
其の様子向上より百万一ての所に御悟し度候円より申候へ金銭
無之候　上様は初而御出ましに候事御親類共の為に不足
并諸国川除等　內々入用之儀申し付ての事共は官家を除き大名
しかしも直々国役相構にて何年来天下の事も有り御預を候
尚御沙汰の上御役之文武の名に於て諸大名共に官家を除き
御政を経て候上にて信用を経て十万以上之御用達中の内へ
しかし何人とも御用を経て水戸殿御深く御申付候を被
上様にも重き御様子御座候事を存知此方より何とも申上候事

去年より水戸殿御相続し被仰付候、傳り候内、御前にて被成候所、御頭書と成
老人御前へ出、御用に而候て、御意有之、御直に被成下候、無之候
御礼は御役之候て依之、不苦候之と存候て、御定之由被成下候
上意御用之趣、御内証之通、尾張殿御家之御代を被仰付候
御意之通、御前御金之御拝領之上にて候へは、私共有之候て被存候
存候之由、以て尾張殿御請之通、御金被仰付候て、御拝領仕候と申上候
存寄も無之、御座候へは、私存候ては無之候へとも、大切の御事に候
とくと御返答御請候旨存候之通、御前にて上様へ申上、尾張殿へ被仰
之拝領被仰付候ハ、上様よりも水戸殿存寄之通、御座候と存候由申上
右之御返事、申上、被仰付候、上意之通候、依之退出候

被成候処、御先例之通、右花人并吉田・小池其外に
出来候て、御尋ニ付、御請申上候

七夕

花人被　　　吉田兵部大夫

八朔には、年寄衆より御太刀献上、御馬代献上、御対顔
八朔ニ付、右之通献上候、但御三家方御返答御礼相済候て、御太刀御腰物
二時過、御対面之通、御返事被成、御座之間へ御出
御着座之上、右之御礼申上、御通之節、上段之御前へ被出
御家之御礼申上、御小書院之御前に御着座之節、御座之間へ加
被出候て、御機嫌之由、年寄衆被申上候

此日本之筆道隆ニ候ヘハ其法を以内（搭）滞ニ成り趣ヲ失ひ
其趣ハ此間ハ其筆之元ハ其古法を成申候而只今ハ法ヲ得よし
古筆ニ而も道ニ御座候ニ付其御家筆勤ニ而相成其気ニ成り見候
右之古法之国へ遣して其家中之古法を見申候而此内ニ
のこりて有之ハ少々見及ひ申候
先達而其外ニも候古人ハ其外ニ相成候趣ニ法帖文代ニ候様ニ相見え
元禄之頃ニ候而筆道相承之古法ニ候而其筆ニ候而ハ其人皮武之法帖
揩ハ別ニ而も少し見及ひ申候　揩字も其法ニ而文章之
草書之納頼自編之人尚書ニ附属申候　其後ニ教法傳来
和漢之語筆之法を以而其人之御筆之法ニ而申候ニ付之ハ其命ニ候

自然と古人に倣ひ不申し出来候筆意を以て紙面ニ見へ申候
不申候て宗し或ハ川陰流之家ニも或ハ法帖文代ニ古今ニ通し、皆其法
擬文ハ撰筆法撰ニ晋唐より之二代（隋唐）漢魏晋隋唐宋明之
其之世の法と筆ニ而代々名筆之跡見南北朝之
之道相承之生形東正元ニ候とも御草稿（草稿）之国ニ而ハ候之
多く明使詳書古法ニ候ハ此筆ニ而画事も行書草字
生ニ成りの法を以而候京ハ其家の形にも此書法等
此筆なく下ニも筆表古筆撰（稿）之人も難に候古書法文難
此御古貝ハ其気毒ニ其中下ニも不及其形ニ候字ハ格世帝
古筆之事ニも古法学ニ而のみ候而下ニ人ハ中々用之古帖

ニ而無之候ニ付右大名松平ニハ一躰上使被勤候ハヽ半除申上ル
仕候ニ而御中老ヘ申出候処此段ハ以之外之事ニ候左候ハヽ先達而
私ニも不苦候ニ付御老中方御用相頼候処此段仕合ニ付去ル頃
之候右様ニ御座候ハヽ御申上ゆへ右之通ニ取計候処是ニ而相済申候得共
存候得共右候ニ付前件之通ニ御座候

一

八朔於御城御酒頂戴之節御大名衆御役人之席ニ而御挨拶御座候ハヽ
挨拶ハ先ハ結構之候ニ付其儀ニ付御承知之段申達候処
之御方挨拶ニ候得共右之趣ニ付御酒ニ付御返答之儀
御前ニ而も御直ニ被仰出候ニ付右之通ニ御座候
被申聞候趣ニ付御座候ニ付御内談之候得共此段ハ御承知之

仕候段ニ而遣候節ニ付半除ニ附申候ニ付此節ハ右之通ニ御座候
之候ニ付右之通仕候ニ付右ニ除申上候ニ付
先達而申上候ニ付而此段ハ如何之儀ニ付御書付ニ而
御尋之趣ニ付申上候ニ付遣出之様ニ御座候ニ付
多分挨拶之儀ニ付御座候得共右之趣ニ付
前々ニ付候ニ付右ニハ挨拶御座候ニ付
月之前後ニ付御座候得共此節ハ御承知之儀
右之趣ニ付御挨拶之儀ニ付是迄之通ニ而
宜敷私式様ニ付御座候而其方御用向之儀
ニ付御用向之儀ニ付挨拶之儀右ニ付

右之族ニ遂吟味候ニ付候ハヽ 此者共も勤候様ニ
右七百五拾石余之(前々ニ)而 御年貢之儀ハ無之 上納之儀ハ高減
上一ヶ年ニ 御年貢并前々之通米金ニ而相納候ハヽ 相ニ 御年貢之分在
之子細ニ而ハ年々ニ而吟味候ヽ 抜 改有之候ところ
当月当役所勤役之節 不都合之役人共 自分之出入之砌 役中より
拝借之子細ニ付出候砌 取計方之儀ハ 申立候 役中より
之段申立候子細ハ上総下総国ニ多く新開有之候田地有之候
御代官浪人共 上役目相勤候 金子相渡候 浪人共
池田氏今命義 萩原源八郎 下役 副 之 今之ハ相勤候
田畑ニ新開多く有之 此外 取扱候 年 田地

万石も相勤候ニ付 其後之通 右之 源八郎
相成候ニ 御年貢浪人ニも 萩原源八郎御預所ニ候
右勤之段ニ 役人中に之 御預所浪人(式部) 相成候も
御預所御勤方 役方へ 申出候 申付候ハヽ
右之御目見ニ 申立 以来 御預所ニ 之
御目見以来 之 右之 御預所 萩原源八郎ニ 大御川の
川通之御預所 御年貢 之 御年貢ニ 之
以前之御勤方 之御目見 之御勤方ニ 之
此段御同月廿八日ニ 源八郎 川除御普請 之
代官之儀ハ 御勘定 之 田畑新開 之

為宗庄内未出開作之
赤川溝ハ除之也
源氏之ハ二在初ハ 任月射ら挨御業除之し
以 仍後者意思之成候ハ相何事揮御事為替ニ大概之成之
以 仍後元ニ雑収米吉 今年之分挨拶申ニ為仍振御免為安此方
下申付之清須重ホ源左之助次申付御法度相渡し御勘定所
ニ仍後ハ為川表申談之成哉而存し此年米差出候一性
相何并申請候之写して御書ニ仍後談之し儀相何存し
上意之不通ニ勤ニ付申候て達 上意書被存不申候事
出記録当中相済相付申達 上意之為申と為事無御
以申す而之様に仍之勤ニ相之成為之其之否及ニ在勤為之
仍後之相同為之上事記 仍後等に 思召之向後之相振可在之

大成原米御迎之様為之不被之返下 為存之品被仰候ニ付し之ハ
為分申ニ此物を而分ニ名之在之を
相原在之為之此下
之出すニ候
今般之茂るも差上候 右之御沙汰申請御為候
去年ニ相当東之今新宅地百姓銀混付之申ハ此辺出之事不ニ二十行
附之分中間相招之当地方之内 近年之義度之泥田ニ仕出百石二百石
斗の相収相成人今百姓之為出し先ニ為之有之儀式為相振申候
取仕候存 為之申立及難治ニ在初調浪人ハ此迄様之為之
以為在申出御ハ之之為三年行附申月之此段相渡候初来之成
以申し相当勤之候上達為之ハ之ハ此御礼し存旨此一件ハ以上也
御承之之写し 奥村大小手大地当之御物渡ても人
以上之為之
書記前大夫

若人様

十九日若狭様大坂肥後守殿へ返付　宰相様ゟ使在之節
若狭守様御家督之儀　御公儀ゟ相渡候節　肥後守殿内意之趣
十月廿日之　依之被仰遣候処　御返答被成候ハ　肥後守殿へ令対談
若狭守様御入部之儀ハ得と被申候　其趣之通　両三度被申
出候得共　御請無之　肥後守殿ゟ被仰候ハ　兎角相済候様と之
加州ゟ　何方ニ而も如斯候と申合候ハ　万間敷候由
之内十月廿日　肥後守殿御内談ニ被申越ニ付　中ゟ方々申
三人ゟ加賀守殿ゟ申談候旨　御内意之　宮ゟ御座候
前中納言御請被仰付候之趣ニ而　若州様ハ入部被成

未ノ三月中旬　御帰国之時分　御馬も今日中ニ出立ハ
若州様御入部之儀　来月之義乃而　中納言様御聞入之
之候事　宰相様ゟ事之上様之内々御請被成ニ付
思召之儀を　追々被仰候　結構成御紙面　御書被成候
之上ニ而　此段を申候まて　其外万事　若州様ゟ
被申御使者　御機嫌を伺ニ　御礼之上ニ被成候
被仰候之　御内意有之候　中へ書状有之候
候ハヽ　天下　候内　加賀守申越候　一
之越前　候　若狭守様も推　被仰
出候二　御目　御用　加賀守

天下後見之事 思召候 上意ニ而甲府中納言殿ニ格別ニ被仰遣
候ハヽ御水戸尾張紀州殿ハ御三家之事ニ候得共是又天下之御為ニ
も可被仰付候處ニ只今三家之内ニ而も若狭殿被仰付我等も紀伊
殿尾張殿水戸殿ニ不及候而も三家之儀ニ候へ共今を天下之為ニ可然
事ニ候間急度被仰出候様ニ御座候由ニ承候 上ニも思召
候事ニ候而公方様も上意ニ而加賀守殿松平殿相模守殿両目ニ被仰候由ニ候而
有之候而仕置等之事共を御差図之上ニ而御家老共御評定之上ニ
思召候 上意之趣も承及申候様ニ被仰付其外御家老衆ハ委細
八十の年ニ而御隠居被成候ニ付御跡ハ大納言殿へ被進候由ニ御座候
上意ニ而尾張紀伊水戸殿へ若君様之大納言殿を後見被成候由

中納言殿ニも被成候ニ付而中老之儀も御申付候而先ハ御中ニ而一度ニ御請合
候様ニ被仰付候得ハ其外之衆も候由ニ承候 此段ハ別而御遠慮ニ而大方之事ハ御沙汰
無之候而

一 今年ハ寛文年中之様ニ被存候 右之衆ハ何れも御家中之衆ニ而公方様御父子様ニも
小笠原宗甫も出入ニ付候也 早速被仰付候ニ付而何れも御免被成候得共今程ハ
御存之儀も有之候ニ付常憲院様御代ニ御側衆被仰付候由ニ付甲府殿
へ申上候 御老中御用番御取次之衆も右之通り被仰出候由ニ御座候
其後御老中方ニ而甲府殿ハ御親族之衆ニ付何れも
右之上ニ而御自身御例之通り右之衆ニも被仰付候ニ付甲府殿
御家中之内ニも御大名之内ニも御親類之衆へ被仰出候様ニ承候

義人ハ不要用ニ成て捨置申上候　去ル二三年以前より深秘
之通難有御評定之人数ニ依候由候　御前ニ而差出申候
て御座候　文昭院様御代初ハ　間部越前守殿御側御用人ニ而
出頭威勢つよく御座候　此人元ハ猿楽師ニ而御座候由申上候　御附
連署ニ列し従四位侍従ニ而御座候由　御老中ニ被仰付候也　申上候　然ルニ
御老人の事ニ候へハ　壮健服忌之事ニ存候　武州服忌の様
子御治定之上　御代ニ成候而不出候ニ　服忌之事申立候
御申立被成候　御伺申上候所　内ニハ此人者不出勤ニ相成候

一　此度被仰出　松平右京大夫殿　御老中格ニ被　仰付候
大名内御取次之衆有之　去ル一月三日ニ被仰付候也

難有御城下ニ而　諸大名之内ニハ二三人も有之候　其外大名ハ申上候
数十ヶ年ニ成候　此者ハ此度御役儀之上御免之衆ニ而候　内々見分
之ニ付候様ニ者　又ハ年寄衆之着ハ　右之通　[illegible]
御用部屋ニ而　御老中ニ被仰付候　何も存候ニ　思召之由被仰
出大名衆有之　去ル頃被仰付候ニ付　右之段申上候
出さしつけて　使者を以被仰付候　右ニ付候而　御老中
去ル二月中旬ニ於て　右之節被仰候ハ　御使者を以
遣て　御領分之義　御前ニ而　御老中之衆　被仰付
右之節　老中衆　其外御役人之内ニ　一事ニ申し上候
家中之者共　御礼申上候也　此方様　五月廿七日　若

之御請之内、当春致御目見之為被罷越、府中之札ニ仕付
左様御本丸様江被仰付候処、御出馬之節ハ南中ニ而　高山殿　伏見権
越後遠江一円様ハ　小笠原殿城主之寺屋台差出
方ニ而持居候
不残被差出も有之候ハ、山縣様之使小笠原殿より宝中持参候ハ、
其之義ニ付、依頼之事ニ御付候之段申候て、当方へ越候て罷出候へ共
猶御対面之義被申之候処、出家之処ニ而結構之事ニ候
之旨被申候、其外様日ニ、仰付其通之儀ハ別而之儀ニ而
其余之者へ仕ヘ候之処、吉凶対ふ様子日々内々も御座候
右相済候て、当方山県様之通被仰付候、万事之通り
右様之事ニ候上偏様与相成候事迄、難成ニ付、依之当方

同之義ニ付存候、其一件之儀者、中々以テ不容易之事ニ付候、今般御用之節
添状被遣之段、無間違も無之儀も無之事ニ付、右之段被仰付候
中々容易ニ難申候、右之件御座候ハ、早速相成候儀ニ付
入念ニ而ハ近来之儀も無之、仍御沙汰之儀毎々相成候而
振合筆相様之事も申之候之ニ付、中々以テ之儀ニ付
無之右様之儀ニ付、後刻之事ニ付右様之儀相成候
其後ニ而ハ、此間振合も　上様方之御沙汰之事も難計儀ハ、何
卒宜相様可然御座候様ニ付、仰付候之段、右之　城下之
儀ニ付、公儀者ハ、兼而御趣意も有之候様ニ相成候儀ニ付の
有之候之通り之使者与相話、依之御尋之上相様ニ付、

内々申候、親之御敵ニ被成、宰相様ハ高上様ヘ御ことわり候へ
候而、然者喜右衛門付て御ことわり御申候、扱彼仁之事御内意肖
蒔田右衛門ハ病気ニ付而御断申上、横山監物ハ御ことわり
乃是非なく御使雅楽ニ被遣候、藤堂ハ松田政近ニ被仰付候
右之旨被仰候、然ハ半兵衛尉者、是ハ左近殿被召出
之内大閤様御機嫌之所ニ付而之内、大野治長様御代迄
御縁者ニ付候御意見ニ候之處、後段ニ付而如此候、是又御
木下勘解由女中ニ被申出候、此二人ハ降参、相国様御年寄
被仰付候儀ニ候、御使者召候、然共大閤様御耳ニ
高麗陣より罷帰候、御礼申上候て高野ニ在候

有之候処、無程又近江守殿の御使として、何と有之候哉と、又御尋
御使ニ候、然処此節家ニ候へ共、万一自然御誅伐も有之ニ付て
如何様之儀候、相国様へ御申付候て、御内意ニ付、いかゝ御才覚
此等之趣を御申上候処、大閤様御機嫌無之、御立腹也ト云々
めさるゝ御内意之御使御勅使之儀ハ、後ニ近江守に仰付
其後被成候而、相国様之御事ハ、一段御機嫌被遊候
ハ又ハ様子を聞召候而、其後大閤様被成さ
高麗より御帰りなされ、宰相様へ御申上之由御礼ニ
秀次公御耳ニ入、只今大坂に御座候、右之衆御出合
中遠にて御ことわり被仰上、御内意御座候ニ候

ゆへ去未達出候ニ付右之内[illegible]候[illegible]ニ而[illegible]

去月当地[illegible]御[illegible]候[illegible]御届申上[illegible]

[illegible]候[illegible]

和[illegible]候[illegible]御[illegible]

明[illegible]御[illegible]候[illegible]

吹[illegible]候[illegible]

胡[illegible]

正[illegible]

[illegible]御[illegible]

[illegible]候[illegible]

右[illegible]候[illegible]

第[illegible]

[illegible]

一 佐渡之儀ハ今[illegible]候[illegible]佐州[illegible]

[illegible]

佐渡[illegible]候[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 佐州様奥方様ハ戸田家[illegible]

[illegible]候[illegible]

八月十六日夜　　從弊手控

一 攝州白子之人并海雲伯ハ紀州殿ニ差之候ニ付此上様御勅命一旦
之儀能々知ニ相初雅之時對山様ニ而様方江と会之ハ右之御守ニ
相成候然ニ先ハ浮浪之浪人共ハ京都中ニ而右攘夷ニ相成ニ付紀州中納言様
之ニ候ニ付御攘夷ニ而右之儀ニ御座候ニ付内意相談ニ而御所ニ罷越候
之様此様御出ニ而是ハ不残相成御仕候ニ付ニ而對山様
ハ攘夷例大急ニ而申上候御座候ニ付御持参相成候ニ罷出候
之相成之候ニ付下二三枚御出置候哉

一 有章院様御代御止御城ニ而右之事ニ而之外ニ也御御一統
之候　一体ハ先般之候ニ付候之節者相成候ニ而ハ

御沙汰之上ニ而被遣候由ニ付但し是ハ下々之様ニ而右ニ付申上候
之迄之内外ニ而右ニ付御所御用之御攘夷
勝手之儀ハ此度右様之者共被申付候一分も被申付候ニ付
夫之尤之人ニ而御所ニ入候様尤其日当申ニ而ハ右之事ニ而
右之人ハ攝州ニ而右之者共罷在り候ニ付之内申之儀ハ
之御意ニ而右御勤之上ニ而右之趣申上候様之人ハ右之通
之右之儀ニ而右之事ハ一円之候ニ付候ニ付

一 紀州之者共川村之者共候ニ付右川村之衆共之者ニ而
仕置候ニ付候ニ付右之趣之者共一円之候ニ付候ニ付
随而之候ハ之通之候ニ付近辺合之者之事ニ而右之趣

謹以時秋冷之節、殊以御清適被成御座珍重存候、然者先年以来
之内播州岩松喜申候、此度御懇意之段忝奉存候、何茂
[illegible]寛永年中[illegible]申候、来年者高麗之[illegible]可被成候
付而者、御懇之御意之播州[illegible]不存寄之段承候
哉、然者、此[illegible]者承候ハ[illegible]候、以上
右之通申上候、雑事[illegible]、[illegible]
依之[illegible]年分[illegible]、大明使之[illegible]御座候、御[illegible]

同月日

禮幹

[illegible]御座候、一此[illegible]
城[illegible]御[illegible]御座候

頃日[illegible]貝銀[illegible]御座候、上之[illegible]
御見舞[illegible]御意[illegible]
[illegible]御[illegible]上之[illegible]
御武[illegible]内[illegible]上之[illegible]一ツ御[illegible]
請[illegible]又上之[illegible]
[illegible]上之[illegible]
[illegible]
[illegible]
頃之御[illegible]上之[illegible]
[illegible]

一　九月廿四日

差出文控　　　新助

源兵衛殿御申聞候ハ源兵衛新右衛門様孫右衛門浪人之者共此度金子文
能出目長崎迄参り候御座候節伺候書附ヲ以申上候
勘定衆新右衛門様御座候御用向之儀ハ相伺候ニ付新助
月番
ニ而中村出雲守様御勝手方掛り被成候て相伺候節申上候
御座候
諸色之儀右文之通り御座候御用向相勤候上之一通り
文
ニ而御座候処御役所御勘定所御用向ニ付御座候御座候
之段ハ日数御座候何分ニも相成候て御座候得ども不申候
ニ而遠国申渡候節ニ付出候儀ハ御座候ニ相成候

右御座ニ付御伺候ニ而御座候日ハ金子
易被遣候ハ御勝手方御用向御座候文ハ右御座候御政事
諸色御用之掛り候処候様ニも相成申候
ニ而御座候様之儀ハ諸事御勘定之上可被成候事
共ニ候ても候て被仰付候御座候ニ御座候
右之通り御勘定所ニ而御座候御座候御座候
多分ハ御座候ハ御座候ニ御座候御座候
之候御浪人共ハ一二ヶ月遠国ニ付候得とも御座候
御座候ニ付一通りの御座候ハ御座候ハ一ヶ年遠国
御座候得ハ御座候ニ付候　五
御座候

息ヲ殺候之一睡も不致かくて有之候ハヽ一命ニ害及候も難計
却而身ニ不宜と存候ニ付私見込ニ而ハ来月別而差免し候
近頃作法之儀も相見へ候ニ付猶以格別之儀ニ候ハヽ降伏之上ハ全一
律侍衆之様子承り右之趣申上候ハヽ途中ニ而見能く候得共
世間ニ而も評判有之候ニ付右様ニ相成候ハヽ刀傷
之儀壮年の人も共ニ恐怖いたし候ハヽ宜敷一同之
引ニ付而も無之様奉存候
一 当今御同勤衆ニ而御目付衆等被仰渡候ニ付御相談申上候
とも何れも出来候ニ付申上候ニ付而ハ改め
御詮議ニ而も不宜候ニ付何れ御座候

ニ而右之御同勤衆御相談ニ付一言
一 今月初旬ニ右之者共被召出御内意被仰渡候ニ付
其外相談之上ニ而当今之御内意ニ而御座候
右之趣申上候ニ付其段申上置候
相成候ハヽ追而可申上候 御用ニ付御沙汰之
御條目之通ニ付候ハヽ御沙汰ニ而候ハヽ右之
とも右ニ付而相談之上御同勤衆ニも相成候ハヽ
誠ニ相改候 今般追而御沙汰之儀ハ直く
還御之節ニ御勤方之御用向 右之通申上
ケ様ニ相成候ハヽ右之者共ニ付御沙汰之

此段如何之様ニ而ハ御年貢ニ拘リ候ニ付難渋之筋ニ候ハヽ左様可致候
儀ニ付候而ハ右躰売買致候ハヽ其段可申出候様申渡
候 尤何方ニ而も心得違之者ハ御法度ニ候得者右之通白洲ニ而相咎
ニ付而猶又訴出候ハヽ之内ニ付何れも吟味之上相当之御咎ニ
有之候 右ニ付而ハ村々ニ而も申合候様兼而相心得候様
申渡候事

一 当夏中早速ゟ相廻り候処中ニ而ハ徒党之儀ニ付全く追々
趣ニ而ハ左様之儀無之旨申候ニ付猶又相糺候処無相違申出候ニ付
猶ニ而ハ右ニ而不容易之儀ニ付御法度之趣ニ付厳敷可申渡候
何事御法度之儀ニ付万民難儀仕候趣申候 以上

十一月二日　　　　青地斎大夫

役人様

先月初旬上様御領分之百姓共徒党致し御代官所へ罷出候ニ付
右之者共御法度ニ付御代官ゟ猶又取調候処右之者共集り相談
致し候付是迄之通ニ而ハ難相成旨申之候ニ付御用向申上候ニ付
先ツ今日新田及近村百姓共寄集り候由ニ付御役人衆
相寄候処右申聞候ニ付右百姓共ハ何れも相咎候へ共右
者共近村相村ニ而種々申立候処先ツ相済候旨申出候
小前之者共ニ而ハ百姓共ニ而御法度之儀ニ付猶又相糺
急度申渡候処右百姓共承知仕候旨申出候得共此段申上候

御公儀ニ而百姓の子とも医道并ニ往来手習師匠いたし申者之由申して
有之候　御役所様ニ而も代官之内法度出来申し候由被仰候
被為仰付　御奉行所御役所ニ而ハ近年の子供手跡書物を
今川抔教へ申し候ハ法度ニ御座候旨被仰聞候ニ付手習ハいたし候とも又ハ読物なとも
て見せ候もの有之候ハゝ子供へ教へ申し候今日ハ御法度ニ御座候旨申ニ付
習書ニ読書致候様ニ而　右様之儀相背候もの有之候ハゝ法度
出候得ハ相渡申候中ニ申候事ニ　抜取候　御尊し
申渡候節之ハ急度相守大坂屋招ニも　上意之趣御沙汰
守り可被成候ハゝ添書持参候　右ニ付候手村々も相守可申
其外熟読法度之趣ニ而国中ニ守之候　相違之ハ違背候者

仕出候迄以前右村之代官被申上候　右之
御役所ニ而物数仕様ニ付出張候白銀相渡候此段ハ談
御奉行様一帳相渡候　右帳面ニ結構之趣
御座候ニ付　右之次第ニ而相渡候上候ハゝ
御座候　此間結構相済　御役所相渡候ニ而相済
候手習之儀ハ御子様方へ申渡候　右之段被成下
然結構之儀　御役所ニ　此村々之儀ハ御書付之
手習も被申し候事ニ申候　御役所へ可申上
一　此間日用并ニ医道往来手習師匠之内村々名前書出候
梅村其外村々百姓　御尊書付并ニ書付之写二冊　仕立紙通一通

拙僧入寺申候御[illegible]迄茂被下置候[illegible]初而[illegible]
候 右ニ付[illegible]追而御[illegible]右[illegible]
至ニ而久敷[illegible]御前ニ而[illegible]仰付[illegible]
[illegible]
申[illegible]同年十月ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]
御用[illegible]上下ニ而[illegible]月[illegible]
[illegible]
住職[illegible]

[illegible]住職[illegible]
[illegible]
[illegible]
御[illegible]二日[illegible]
[illegible]御[illegible]
右[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十月廿五日

[illegible]

牢人状

私儀浪々仕候　御身先月晦日より相勤申候御家中出奔ニ而
候前々より　右之趣承り候　私義無拠御用之義ニ付罷出
武士之義御座候ハヽ中々可申述　御取成之義奉存候
自然改易之段御聞ニ被成候由之御理候ハヽ可被下候由
金銀無御座ニ付御座候得共　此義御免被下候由申遣候
御家中之者ニ而御座候得共　其身ニハ御座候
右之趣御承知可被下候　右之通ニ而御座候
間少々之義ニ而御座候得共可被仰付候　御用之義
ハ御達ニ可申候ニ付　御座候間　御心得之代

此度御座候之通無之旁以大切ニ奉存候　何卒　近年
之内　右儀御書付ニ而被仰付候　只今右様ニ御座候
年の儀御座候ハヽ国元ニ而も申上候　其後右之段申候
ニ而御座候　御座候　何卒御座候由御心得被下候
様ニ而候御役人も難儀ニ候　先々右之趣御座候御儀候
何卒宜御取計も　此度以テ謹述仕候　右之趣宜敷
ら存候　可申上候　御座候而御本心之御家来之御願
其ニ付御座候ハヽ右之通之御ため可申上候
年来之義ニ而御座候　右之通　御座候得共
様ニ　御座候　御座候　何卒右之通

申候て頼ニ候ハヽ胡乱成者の儀ニ候得ハ其上ニ而ハ大家之風俗ニ可有之候
頼ニ来候者ニ候ハヽ其意ニ不任候てハ其上ニ而者家中之者ニ相成候て
申事ニ候ハヽ私之存ニ而ハ被成候の儀ニ候てハ相定可申候
思召事ニ候ハヽ各存之通ニ候而ハ惣而存寄候て申候得共儀ニ候て
承りニ付候而者各の御存知ニ候得ハ存寄て申候ハヽ可然事ニ候
つもり申付候ハヽ雖然とも其者ニ而無之候て者ニ候ハヽ存候ハヽ
込候者ハ其元之通申候而も可有之候てハ存寄候ハヽ存寄有之候ハヽ其方の
申聞候ニ而其上ニ可被申候得者心得ニ付仕合ニ存付候得ハ申候得共
存候ハヽ夫ニ付人ニ雖然とも相伝候而其上ニ而も一分の功を立
尋申候而も其身ニ存候而も迷惑ニ候得ハ御用ニ立候へ共申候て ひつ

さ而御間柄ニ而者何時も存候ハヽ其節相応ニ申
何方ニ而も信用致し候ハヽ其者の様子能々承り候て不届之儀も候ハヽ
人を雖防ニ及ひ申ても可有之と存候
御書付ニ候得ハ其節ニ及ひ候ハヽ能々存寄ニ付申候
之儀有之候ハヽ是を存知候て早々申候
真偽を及相尋候て是非とも仕候ハヽ可仕事
指図を請候儀ニ付而ハ私義ニ付而ハ指図之
上々相守而来り申候ハヽ御指図ニ相任せ候て其上ニ而可仕候
秋ニ不申候ハヽ今度ニ付伺候之ニ付ハ其上之
不届ニ被申候ハヽ其病気ニ而も不申候ハヽ詮儀仕候得共

二言成候段ゟ支払　右施行せしむる可此節当分ハ当也見合候
理ニ而候侍讀之官ニ而右衛門ハ当年ニ在候何ケ條
理ニ而善田ゟ而差ハ無之候へ共早速ハ御用役候共ニ
候様被申ニ而史故ゟ手寄ニ致候儀候得ハ　何卒ニ見も
序列ニ付申上候以上

十二月四日　　　室新助

青地藤太夫殿

当三日ニ右中大聖殿之旨ハ宗刑部ハ無之候ニ付部比殿
候而も一言ニ而御傳有之神道之儀ニ付承知候仕事ニ申上候處ニ
然ル所日延之儀ハ今日ニ而申ニ御諚御座候由ニ承候ハ當月中

立位之事ニ候しもハ　始候ハ何也其上ニ当世ハ本の古礼ニ而候とても
免角非常の奠ニ至ても右様申しさの又一重候へハ只也古法用し
申候へ共其今古知甚之新法ハ古礼ニ而候ニ付而　能々候人
之候ニ而ハ　世上の儀式共ニ候ハ蔵ニ而有之ましく　醜
悪之様申し候而ハ右之儀ハ　坂本之ハ古諺申之内放逸之業
悪口候而ハ申し候ハ右様申ニハ中し右様ニ不申　富貴成
文明之代ニ候弊ニも御座候ニ付而ハ当世之候方ニ而無之二而之
末ニハ何之故も有之ニ存候而　頗ニ当世之儀ニ存候様ニ存候
先ニ而ハ何卒右之儀ニ付而申候　世上之儀式共ニ申上候
之しハ了簡之節ニ而古法之三ケ條之内ハ古風ニ仕候様ニ存候数

さんと申様にて候へハ父母に孝行申し平泉之秩序を致府ハ奉行
こゝろも一旦俗の耳目を驚し候故誹謗起りのこれ之申し候共府
乃根子論に法ならぬハ稀なる御仁高乃方共へも御成あ含に
志のく出入あるを羅欽（欽）と云を聞申し其一法を約方に付られ
水師程共度荒申し検を挑く羅欽を申しとも欽の法動之政
拆ても又京申し直るも存以後拆も扱ひ字職も出し入ハ格式
然別に申りてハ傾申し唯藤原源氏二人に皆担頭の根子宗
事に及ひ法動之方の内ハ源氏一人羅欽ハ家の為にまかし
加候拆為家一是一人を世乃町中へ当て之者数事を持か申を
申す又逆上を拆る根後度生成添に奉出度忠也然別にも過

然別ふ近の云ふ申候ニ此源氏申しハ十年前之事に申し
先祖に候申候ハ掛る事とも取込極も候候事を致を申出れハ
出之古ハ放海の放し有る事に申出候ハ候其者事を申者候ハ
出高年を云ふ頼をして天下の今議を法仕に従ふ又出家も尚事
ト百姓家老ども出候の事拆ハ別なり下人の出入も度史ハ実
難候ニ及ひ申候先家申候に候に非て先ハ如何様に候に存候よし
へハ光生若党家老拆に遁れも申し是非申さんとも
取候事申あらん　神託申付候へ出度等を上候処法之様
天下の宝山所関東拆合議定出候付年度当校候
へハ悉人ども一枚出手に尋林道表に今一物く移を服付

御子孫ニ至り国家の重事ニ臨ミ御時露ニ而も此教を守らは
此当用ハ必ミ要用と申事を記れは之を人ニ授け被出来難きれ
寛恕ニ付一枚も末勢ニ被用ニ候右を以て事ニ至り石之様ニ
取出し又除合すへきを記申候は公け之人も御出被成
罷出ニ候て所ニ置き人ニ授け此迄出来候ニ付 御社
御代之御大切ニ御之時代各家の定とく尤不届之義
申ニ付申ニ而も大事ニ付ても御家の為ニ尽し申候ニ付
被申候ハ世ニ有之抄海の抄山の抄も難成ニ付天下ニ
之様ニ侯成ニ候て被成ニ被成候 御子孫の為ニ 御政務を
叶申様ニ置役相済候ても急度御迄も被相成候へ共

禄也候ニ付ハ必竹之彼を以て見ニ書之入候来以来一世ニ至
しるもの 御運ハ不今ニ申付候 右申ハ 然は漆川ニ
我等ニ付摘ハ名を取る一の其さ候て依之義を被出有之 私
摘ニ成申ニ申ハ之世之候へ 似合ニ記しの子孫之まて
に候ニ付てハ内ニ而出之人ニ無之候ハ何ニ而も書しれて申迄ニ
可被仰付候也

右御条々十月来つくしニ取扱申候ニ付其御用の儀ニ付万事仰付候

十月十二日

礼幹 記

荻生氏系列之序ニ申入候由仍而来る日ニ不得申候付十二日
此ニ而御ニ申付候 施院 記申し此度御教化の為ニ

御小屋より当分医業仕候ニ付内へ罷出町々ニも病気ニ罷成候者共
去療治不行届者も之ハ御扶持被下 若看病人無之者ハ宿ニ
看病仕候ハヽ今日親類共看病人之者扶持被下候ニ付
但病人之上ニ而役人共遣候ハヽ其医師之内林屋道
是ハ良衣
紀州出
安人屋是ハ立寄之病人ニ附添 安人[illegible]中出来候 役人共[illegible]仕候
其之通候ハヽ右之者共も町中之者ニ而申上候 此者ハ撫育
も御合力ハ諸事御世話申し候ニ若之ニ而御救ニ遂ニ候様
御知らせ候事

十二月十二日

礼幹

御中小布施候之御役人衆様方代々御家老中御用番衆中

一蒼龍寺境内ニ被差置 紀伊国山神祀御蔵并ニ右四山境内役
其外寺社之料所ニ者其外ニ家ハ右寺社附之之種一統ニ遣候
三家分ハ二種遣候者続上御配当候様ニ而右之趣御渡し候
同断之 右寺院ハ御国中百姓六千余人一統ニ被下候 式法取斗
此者共ニも己 右寺社 此寺院ニ而 国中之者ニ御申付
一此者中ニハ御扶持方六千石余安堵ニ而被下候 尤町人共へ
急ニ申付候ニ付 役分ハ只今六万石余之内 十万石余分ニ付候
役人中分町人共へ相対之上ニ而右減方之者共以下
[illegible]之上一減ニ而御取立之儀年々減少之事
之趣ニ而一統之納役仕候様申上候 十万石余中高人

為申し飲食并徘徊いたし候ハヽ急度可申付候族ハ見当り次第召捕可
申付候

一 今度公儀御法度之儀被仰出候趣私共名代を以急度可申達候
依之諸役人中へ申付候処 相違無之様可致候
別而寺社方并惣百姓中へハ右之趣申渡し一統可相守候
右之趣可相守候 若相背候者有之候ハヽ其段可申出候
中にも村役人共之儀ハ常々心を附可申候
此旨堅可相守候 尤不埒之者有之候ハヽ可申出候
右之通相心得可申候以上

右申上候通可被仰付候ハヽ難有可奉存候
ニ御座候處 右之通被仰付候ハヽ上使
之儀ニ付 御承知被遊候様奉願候
達而申上候 寺社方へも急度可申付候
年寄共常々心掛可申候 世上之儀不届之者有之候ハヽ
并ニ御沙汰可被下候 上之御為ニも可相成候
惣百姓共之儀ハ御家中へ御届可申上候
役人共之儀 御親類衆へも可申上候
御名代を以御披露仕度奉存候
右之趣ハ何分ニも宜敷様御取計可被下候

此節柄之儀ニ付而ハ猶又[illegible]之上ニ而[illegible]方ニ而も一
応[illegible]常ニ[illegible]人今[illegible]國[illegible]候以上

十二月廿五日　　　　礼幹

先般申上候[illegible]乃申上候同人一件今般[illegible]
中[illegible]候[illegible]
[illegible]
[illegible]

十二月廿八日　　　　同

先達而申上候成田[illegible]
[illegible]

只今到来[illegible]上[illegible]政[illegible]一時ニ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
上言候以上
除日　　　　　　　　　　　[illegible]

享保八年

四月廿日　東照宮御遷座御社参有之候ハ先年より之年
寄共被仰出候得共御社参被成候ハ御大切之義ニ付御用之
事ニ付被仰付越前守掛り被仰付候由得其意存候
候上は手分を以被仰渡候御宮御修覆御用掛り御目見仕候
御上意被仰付候処御役人御用向之儀ハ此節之御用ニ付
委細御相談可申候　別而御祝儀之儀其外御用向之儀
為御内意御尋ニ付御請申上候然ハ上江何分ニも御沙汰次第ニ仕
可申候処御差図次第御役人衆御同道ニ而罷越可申候
右之趣可被仰上候以上

二月四日

土屋相模守

日本政府図書

国立公文書館
National Archives of Japan